

## 講演② 韓国の両生類

キム・ヒョンテ(韓国両生類保存ネットワーク・ソサン高校教師)

朝鮮半島に棲息する両生類は有尾目 9種、無尾目 15種の合計24種だ。なかでも *Salamandrella schrenckii*、*Pseudepidalea raddei*、*Rana amurensis* の3種は北朝鮮にだけ棲息していて、韓国には有尾目 8種、無尾目 13種の合計21種が観察されている。

有尾目Order Urodela にはサンショウウオ科Family Hynobiidaeの7種、アメリカサンショウウオ科 Family Pletodontidaeの1種の合計8種のサンショウウオが観察されている。

サンショウウオ属Hynobius の中には外形と棲息生態が似ている 3種の姉妹種が知られている。中南部地域に広く分布しているチョウセンサンショウウオ *Hynobius leechii*、釜山地域を中心に分布しているゴリサンショウウオ *Hynobius yangi*、済州島と西南部地域に分布するチェジュサンショウウオ *Hynobius quelpaertensis* 3種が記録されている。しかし最近の巨済(コジェ)、統営(トンヨン)、高興(コフン)などの南部地方で mtDNA分析を通じて新しい3種が棲息していることが分かった。(ペク・ヘジュン、2011)。新しい種はチョウセンサンショウウオに比べて体の長さ卵の大きさが小さく、1個の袋の中に卵の個数が少ない。しかし外形や生態を通じて6種を区別する方法に対しては、まだよく分かっていない。

ハコネサンショウウオ属Onychodactylus の中には全国的に広く分布しているハコネサンショウウオ *Onychodactylus fischeri* 1種が知られている。韓国の中北部地方の高い山に主に棲息することで知られていたが、最近では全国のほとんどすべての山で発見されている。江原道の石灰洞窟中の一つの幻仙窟でハコネサンショウウオの卵を唯一に観察することができる。しかしそれ以外の地域で卵を観察した記録はない。

イキサンショウウオ属Karsenia の中にはイキサンショウウオ *Karsenia koreana* の1種が知られている。2001年 Stephen J. Karsonが学生たちと大田(テジョン)の醬太山で野外活動中初めて見つけ、2005年ネイチャー誌を通じて発表された種である。他のサンショウウオとは違って水中で生活しないで石の下や腐った木や落ち葉など湿り気がある陸上でのみ生活する。2月末から11月中旬まで小さな石が多い野山で観察され、忠清道(チュンチョンド)・全羅道(チョルラド)・江原道(カンウォンド)地域を中心に広く分布しており、今でも新しい棲息地が発見されている。特にこの種の繁殖に関しては分かっていない情報がない。卵生なのか、胎生なのかについても分かっていないが、2008-2010年の間大田科学高等学校学生たちと一緒に観察したところによると、60~70個の卵が3月から成熟し始めてその年の秋にはその中の6~10個だけが直径5mm程度に大きくなって残りは退化する。成熟した卵の状態ですべて冬眠をして翌年まで保っていて、雄との交尾の後、5月以後に産卵するか腹の中の卵の中で成長するのではないかと推測している。

無味目Order Anura にはスズガエル科Family Bombinatoridae 1種、ヒキガエル科 Family Bufonidae 2種、アマガエル科 Family Hylidae 2種、ジムグリガエル科 Family Microhylidae 1種、アカガエル科 Family Ranidae 7種、合計13種が棲息する。

チョウセンズガエル *Bombina orientalis* はお腹が赤くて背が緑色や茶色で、濟州島を含んだ全国に分布しており韓国の両生類の中で一番多い種だ。ヒキガエル科にはアジアヒキガエル *Bufo gargarizans* と江原道地域に主に分布する ミズヒキガエル? *Bufo stejnegeri* が棲息する。

アマガエル科には日本に棲息するアマガエルと同じアマガエル *Hyla japonica* と京畿(キョンギ)湾周辺の京畿道と忠北地域に棲息するスウォンアマガエル *Hyla suweonensis* の2種が韓国に棲息する。スウォンアマガエルはアマガエルに比べてより高い音を遅いテンポで鳴く雄の泣き声で区別しただけで、外形では区別が不可能だと考えてきた。しかし、最近外形をよく調べた結果、スウォンアマガエルはアマガエルよりも体に比べて小さく尖った頭を持っていて、外形でも二つの種を区別することができるようになった。1980年に倉本満が新しい種として登録した。

ジムグリガエル *Kaloula borealis* は他の蛙とは異なり暴雨により生じた新しい水たまりに卵を産む特徴を持っている。卵は目玉焼きのように水表面に浮かんで1~2日の間にオタマジャクシに変わる。気候の変化により梅雨の期間が大きく変わるので、時期が変わりジムグリガエルの産卵時期も大きく変動し、繁殖成功率も毎年大きく変わる。

蛙科には *Pelophylax* の中にトノサマガエル *Pelophylax nigromaculatus*、*Pelophylax chosonicus* の2種があり、*Glandirana* の中に *Glandirana emeljanovi* の1種、*Rana* の中に *Rana coreana*、*Rana dybowskii*、*Rana huanrensis* の3種があつて、*Lithobates* の中には *Lithobates catesbeianus* の1種がある。

*Pelophylax chosonicus* は トノサマガエル *Pelophylax nigromaculatus* とは違い胴に突起がなかったり、点模様の突起を持っていて、腹が黄色を帯びているので区別が可能だ。後足も短く水中での生活がより好きだ。*Glandirana emeljanovi* は最近まで日本に棲息する種と同じ種と考えていたが、mtDNAの研究を通じて他の種として区分する。

*Rana coreana* は韓国にだけ棲息すると考えられていたが、2011年、中国の山東半島の *Rana kunyuensis* が同じ種であることが明らかになり、朝鮮半島と中国地域に棲息すると思われる。*Rana dybowskii* は日本に棲息する *Rana ornativentris* として長い間区別していたが、ロシアと中国地域に棲息する *Rana dybowskii* であると記録されている。また、*Rana dybowskii* とは異なり流れる谷の石に卵を付けて産み *Rana huanrensis* も中国から朝鮮半島まで広く分布しているということが最近分かった。*Rana* 属のカエルに対しては日本、中国、韓国の個体との関連性の研究が必要だと考えられる。

ウシガエル *Lithobates catesbeianus* は1970年代に日本から導入して全国に放った種で、濟州島から中部地方まで大きい川と貯水池で一番観察しやすい種になった。